

# 2018(平成30)年度 事業報告書



公益財団法人 知床財団



## 目 次

公	益	事	業
<b>公 1 : 普及対策系事業</b>			
I.	野生生物との共存のための啓発業務		3
1.	地域向け環境教育		3
2.	学習教材開発・運用業務		4
II.	国立公園利用者サービス業務		4
1.	ビジター向けインフォメーション・環境教育業務		4
2.	知床自然センター内外刷新業務		5
3.	ルサフィールドハウス周辺整備構想検討業務		6
III.	情報発信・賛助会員拡大業務		7
1.	地域向け情報発信		7
2.	一般向け情報発信		7
3.	ホームページ等インターネットを活用した広報の強化		7
IV.	賛助会員運営業務		8
1.	会報誌の発行		8
2.	賛助会員の管理		8
3.	寄付、賛助会員拡大推進		8
V.	人材育成業務		8
1.	ボランティア活動推進業務		8
2.	人材育成・就業体験受入業務		9
<b>公 2 : 施設管理系事業</b>			
I.	知床自然センター等管理運営業務		10
II.	羅臼ビジターセンター管理運営業務		10
III.	ルサフィールドハウス管理運営業務		10
<b>公 3 : 調査研究系事業</b>			
I.	独自調査研究事業 (独自事業)		11
1.	エゾシカ個体群の動態に関する調査業務		11
2.	ヒグマの生態等に関する調査業務		11
3.	知床の暮らしと生き物を守る電気柵・ゴミステーション等普及業務		11
4.	希少鳥類などの長期モニタリング業務		12
5.	海生哺乳類モニタリング業務		12
6.	水域における生物群集モニタリング業務		12
7.	学術的な交流と成果公表に関する業務		13

8.	知床半島におけるヒグマ捕獲情報の収集業務	14
II.	斜里町及び羅臼町におけるヒグマ・自然環境管理対策事業	15
1.	ヒグマ対策業務	15
2.	自然環境管理対策業務	15
III.	野生生物管理事業	16
1.	知床国立公園・国指定知床鳥獣保護区における利用の適正化と野生動物との共生を推進する業務	16
2.	エゾシカ生息密度操作関係業務	16
IV.	遺産地域調査事業	17
1.	エゾシカの採食による植生への影響調査業務	17
2.	エゾシカ航空カウント調査業務	17
V.	科学委員会等運営事業	17
VI.	自動車規制管理運営事業	18
VII.	知床エコツーリズム総合推進事業（独自事業）	18
VIII.	知床五湖関連業務	18
IX.	住民講座補助業務	19

公4：森林再生系事業

I.	しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務	（受託事業）	20
1.	森林再生推進業務		20
II.	しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業	（独自事業）	22
1.	普及推進業務		22

収	益	事	業
---	---	---	---

収1：収益事業

I.	販売・有償貸出業務	23
II.	研修実習受入業務	23

他1：その他の事業

I.	JBN業務	24
----	-------	----

法	人	会	計
---	---	---	---

法1：財団法人管理運営事業

I.	財団法人管理運営業務	24
----	------------	----

公	益	事	業
---	---	---	---

公 1 : 普及対策系事業 (独自事業)
----------------------

## I. 野生生物との共存のための啓発業務

### 1. 地域向け環境教育

#### 野生生物との共存への理解を推進する教育

知床ウトロ学校の1年生から6年生を対象としたクマ授業を実施しました。今年度より、1・2年生のクマ授業は8年生が実施する試みを実施しました。また、知床財団が行うヒグマ対策活動に対し、住民の理解と協力を得ることを目的に、知床財団職員とウトロ・斜里町の住民が直接意見交換をする「クマ端会議」を今年度もウトロ、斜里市街地それぞれで各1回ずつ開催しました。

羅臼町では、幼小中高一貫教育のカリキュラムのもと、幼稚園と小学3年生、小学5年生、中学1年生、中学3年生、高校2年生の全生徒を対象に、計11回のヒグマ授業をそれぞれの学校で実施しました。昨年度試行的に実施した標津中学校のヒグマ学習は有償ですが、今年度もヒグマ対策スタッフが赴き、実施しました。

#### 地域の自然への関心を高める教育

斜里町、羅臼町それぞれにおいて今年も総合的な学習の時間などの枠で、知床の自然や世界自然遺産、知床に暮らす生き物、100平方メートル運動など学習対応を行いました。

しれとこ100平方メートル運動の学習対応として、7月に斜里小学校3年生を対象に、野外学習前のレクチャーを実施したほか、4年生を対象に、座学と現地実習を組み合わせた授業を実施しました。また、同7月に知床ウトロ学校8年生の職業体験実習を受け入れ、森づくり作業を体験してもらいました。

総合的な学習の一環として、10月には知床ウトロ学校1、2年生を対象に、身近な自然や昆虫について学習する授業を同じく野外で実施しました。同10月に、斜里町朝日小学校6年生を対象に、知床の観光と自然保全について考える授業に講師として参加し、自然保全の立場から児童の発表に対するコメントなどを述べました。また生活科の授業のひとつで知床ウトロ学校2年生を対象に、「冬の町」学習を実施しました。知床自然センター周辺をスノーシューを使いながら散策し、森の木々を観察しました。

斜里中学校2年生のキャリア学習では、学校に直接出向き、知床財団がどのような職業か学んでもらう授業に協力しました。

羅臼町においては、知床未来中学校2年生、羅臼高等学校2年生の職業体験学習を例年通り羅臼ビジターセンターで受け入れたほか、今年度は標津高等学校2年生の職業体験学習についても受け入れました。

羅臼町公民館、環境省と共に羅臼町内の小学生を対象にして毎年実施している知床

キッズ（羅臼町ふるさと体験教室）は、今年度も5月から2月までの間に計10回の講座を企画しました。今年度で5年目となるウトロの愛護少年団との交流事業も引き続き企画、実施しました。プログラムは前年度と同様でしたが、6月に予定していた知床岬でのゴミ拾い活動は海域の状況を判断し、「ホエールウォッチング体験」に切り替えて実施しました。ウトロのチャシコツ崎における浅瀬の生き物学習は、7月に実施し羅臼、ウトロそれぞれの子供たちのよい交流の場となりました。

羅臼町教育委員会、羅臼町公民館、子ども会育成協議会が主催する「羅臼町ふるさと少年探険隊」に、今年も職員1名が運営スタッフとして協力しました。

## 2. 学習教材開発・運用業務

今年度、ヒグマ学習教材トランクキット1号機の貸出実績は9件、2号機の貸出実績は6件となりました。貸出し出張期間以外では、職員がヒグマ授業や、広報イベント、知床自然センター内での観光客向けレクチャー、町民への普及活動などに活用しています。

また、海獣版のトランクキットは、羅臼ビジターセンターでのミニレクチャーなどの場で職員が活用したほか、1月に札幌で開催されたイベント『世界自然遺産・知床の日「しれとこ食の宴」』でも活用し大変好評でした。

## II. 国立公園利用者サービス業務

### 1. ビジター向けインフォメーション・環境教育業務

#### 知床自然センター

前年度に引き続き知床自然センターでのインフォメーションおよび環境教育事業は、次項のリニューアルアクションプランとして一体的に実施しました。

#### 羅臼ビジターセンター

来館者に対し、自由に展示物を見ていただくだけではわからないストーリー性や奥行きのある自然解説を行うため、ミニレクチャーを実施しました。今年度は7月から9月の繁忙期に計17回実施し、148人の方にご参加いただきました。レクチャーの内容は、知床の海の生き物に関することやヒグマの話、またシマフクロウやマルハナバチについてなど、バラエティー豊かな内容で実施しました。

また、冬期間の利用者によりビジターセンター周辺を楽しんでいただくために、ビジターセンターの裏手から間歇泉やキャンプ場をめぐるスノーシューコースを昨年引き続き運用し、積雪時期の新たな公園利用の提案を行いました。

#### ルサフィールドハウス

知床半島中央部地区及び先端部地区利用者に対し、立ち入る際の留意事項と禁止事項等についてレクチャーを実施しました。一般来館者へは施設展示を活用しながら、

数多くの鯨類が利用している羅臼の海の豊かさなどのついてお話しするとともに、フィールドハウスの2階から観察できる鯨類のことなどを解説しました。

### 知床五湖フィールドハウス

知床五湖利用調整地区の指定認定機関として4月から11月まで職員が常駐しました。遊歩道のコンディションや自然情報等の情報を収集し、SNS等も用いたリアルタイム情報の発信を行いました。特に、外国人対応として、展示物や案内物の英語表記やピクトグラム化を強化しました。また、ヒグマ活動期には、知床ガイド協議会と協力しガイドツアー情報や当日のツアー参加希望者への案内サービスを継続しています。

## 2. 知床自然センター内外刷新業務

知床自然センターは平成27年度の大規模改修工事を経て、平成28年4月にリニューアルオープンを迎えました。平成29年度には第2期工事が実施され、今年度は、駐車場や園地を対象とした外溝工事の設計が行われると同時に、大型映像「四季知床」の後継作品の制作が始まっています。こうした各種リニューアル事業の進捗を踏まえ、ソフト面を含めた施設の利活用を進めるためのリニューアルアクションプランを係横断で編成した作業チームにおいて実施しました。

### ①インフォメーションカウンターの運用

フィールド情報の受発信と外国人利用者への対応を核としたインフォメーション機能の充実を図りました。リアルタイム情報の受発信の強化のため、twitter等のSNSの運用を継続したほか、知床国立公園内の施設、観光船、遊歩道等の開閉・運用等の状況が一覧できるポータルサイト「知床情報玉手箱」を運用し、館内サイネージに取り入れました。また、100平方メートル運動地の公開コースである「森づくりの道」の情報提供にも取り組みました。また、夏期繁忙期にはシャトルバスの発券サービスを行い、チケットの発券と共に情報提供を行う仕組み作りを構築しました。

### ②レクチャーコーナーの活用と普及啓発事業の実施

レクチャーコーナーにおいて、定時レクチャーに取り組みました。知床の自然の魅力や財団の取り組みを分かりやすく伝える「知床財団 スタッフトーク!」は4月20日から10月19日までの期間、毎日1回実施し1,175名の参加がありました。実施時には、併せて財団活動のPRも行い、募金を募りました。館内に設置した2カ所の募金箱と併せ、今年度は総計851,515円の募金を集めることができました。

### ③映像ホール「KINETOKO」の運用刷新

今年度は四季知床の後継作品の制作が本格的に開始しました。財団の知見を魅力的な作品作りに活かすため、撮影やプロモーションに協力しました。映像ホールのリブランディングのため、リニューアルしたホールの愛称を「MEGA スクリーン KINETOKO」とし、ホール正面入り口も改修し、デザインを一新しました。

また、ソフト面においては、複数作品の上映を定例化し、柔軟かつ多様な運用体制を構築するため、2～3作品の上映をシーズンを通じて行いました。

#### ④常設展示・企画展示室の立ち上げと運用

館内展示について、従来の展示物の整理を行い、テーマや導線に沿った再配置や外国語表記に取り組みました。柱展示は従前通りの取り組みを継続しました。企画展示室においては、年2回の企画展を実施したほか、ミニギャラリーでの写真展も継続し、5回の写真展を行いました。

#### ⑤屋外スペースの整備と導線の確立

自然センターの外構工事のあり方について斜里町との協議を継続しました。本年度は、駐車場を中心とした外構について基本構想と設計が行なわれたことから、今後の同地区の利活用を念頭とした導線や駐車場の配置について提案を行いました。

#### ⑥広報・記念イベントの実施

知床自然センター開館/知床財団設立30周年を記念し、ホロベツ地区の園地・施設の今後のあり方を象徴するイベントとして第1回知床アウトドアフィルムフェスを企画実施しました。具体的には、①カナダのバンフ国立公園で毎年開催されている山岳映画祭のワールドツアーを映像ホールで開催 ②2020年公開予定の新映像公開に向けたプロモーション ③ホロベツ園地を活用した野外アクティビティ ④地元ガイドと連携した屋外プログラム（開拓小屋コース散策、知床峠サイクリング） ⑤アウトドアブランドを中心とした販売企画 ⑥地場産の食材を活かしたフードメニューの提供等を実施しました。会期中の来場者数は1,500名強となり、通常の約3倍の入館数を記録し、近隣地域のみならず遠方を含め多くの来場者で賑わいました。

3月には地域向けのイベントとして「知床自然センターの映画会」を開催し110名の来場がありました。

知床自然センターの展示やイベント、最新の取り組みを紹介する「知床自然センターだより」の発行を継続しました。ウトロの宿泊施設および観光関係施設（全27施設）に配布し、宿泊者への情報提供に役立てていただいています。

### 3. ルサフィールドハウス周辺整備構想検討業務

ルサフィールドハウスの知名度向上と幅広い層の方々に利用いただくことを目的として、「ルサ・カフェ」を実施しました。今年度は7月20日～7月22日の3日間と、9月12日～9月17日の6日間に実施し、期間中1195名の来館がありました。町民の来館も多く、年を重ねるごとに知名度が上がっていると実感しています。9月のカフェでは夜間開館も実施し、町内飲食店のピザを提供し他ところ、大好評となりました。

また、ルサフィールドハウス裏に植生保護のための防風防雪柵を設置する作業を行い、この活動を周知するための町民イベントを10月7日に実施しました。秋の晴天の中の作業とイベントは、のんびりとした雰囲気に参加の方々にも楽しんでいただけました。

### Ⅲ. 情報発信・賛助会員拡大業務

#### 1. 地域向け情報発信

知床財団の活動に対する理解と協力を得るために、地元やそのほかの地域に向けて知床財団の活動紹介を行っています。地元の斜里・羅臼両町民向けには、2009年度より知床の旬の自然情報や当財団の活動・イベント情報をお知らせする「知床財団だより」を発行しています。今年度は下半期の2ヶ月に1回、斜里・羅臼両町の広報誌に折り込みました（発行部数：斜里町5,050部、羅臼町2,000部）。

#### 2. 一般向け情報発信

会報誌SEEDSを活用して、観光客を対象とした知床財団のPRや賛助会員獲得に向けた広報を展開しています。2011年の夏より、斜里・羅臼両町の宿泊施設にご協力いただき、SEEDSを町内の旅館やホテルなどの宿泊施設に置かせていただいているほか、賛助会員募集パンフレットを地元の旅館のロビーなどに置かせていただいています。また、SEEDSバックナンバーを販売物のラインナップに取り入れ、賛助会員入会への導入を試みています。

協定先の旭川市旭山動物園では引き続き「しれとこシカ絵巻」をエゾシカエリアに設置いただいています。また、園内図書館には賛助会員募集のパンフレットやSEEDSのバックナンバーファイルが設置されており、知床財団活動のPR、賛助会員獲得にむけた広報にご協力いただいています。

#### 3. ホームページ等インターネットを活用した広報の強化

知床財団の活動に対する理解と支援の輪を広げるため、ホームページでの情報発信を継続して行っています。SNS（Social Network Service）のひとつFacebookを引き続き広報媒体として活用しました。知床財団の活動ブログをFacebookでも取り上げるなどして知床財団のホームページへの誘導も図りました。イベント開催時には、ローコストで広報できるFacebookのメリットを活用し、メインの広報媒体として大いに活用しました。

## IV. 賛助会員運營業務

### 1. 会報誌の発行

賛助会員向けの会報誌である知床自然情報紙「SEEDS」を3回発行したほか、30周年記念誌を1月に発行し、会員の皆様や関係機関の方に発送しました。

### 2. 賛助会員の管理

今年度の新規の入会状況は、個人年会員104名（前年度126名）、個人終身会員17名（前年度9名）、法人年会員5法人（前年度5法人）、法人特別年会員5法人（前年度1法人）でした。2019年3月31日現在の会員数は、個人年会員700名（前年度667名）、個人終身会員1,076名（前年度1,068名）、法人年会員49法人（前年度44法人）、法人特別年会員17法人（前年度11法人）、計1,842件（1,790件）でした。

### 3. 寄付、賛助会員拡大推進

知床財団の活動をひろく一般の方へPRし寄附拡大へとつなげるため、札幌近郊で開催されている北海道キャンピングフェアに参加しました。本イベントの参加は2016年度から実施し、今年度3回目の参加でした。また、斜里町の産業祭り、羅臼町の知床開きに出展し、地元住民に対し知床財団が行なっている活動内容の普及に努めました。

また、知床の日には札幌のホテルで開催された『世界自然遺産・知床の日「しれとこ食の宴」』というイベントに参加し、知床の自然について簡単なトークを実施し、知床財団の認知度向上に努めました。

クレジットカード自動決済は128件、前年度より大幅に増加しました（前年度74件、前年比173%）。

今年度、個人寄付としてお寄せ頂いた金額は3,962,450円（うちクラウドファンディングによる寄付1,810,000円、前年度1,464,635円）となりました。法人寄付として13社から総額7,602,058円（前年度8,277,865円）の寄付をいただきました。

知床自然センター・羅臼ビジターセンターの館内展示や知床財団ホームページでは、賛助会員募集や寄付の呼びかけ、寄付のお礼の掲載などに力を入れました。

賛助会員を募集するためのパンフレットは今年度改訂作業を実施し、2018年度からデザインが一新されたパンフレットを配布しました。

## V. 人材育成業務

### 1. ボランティア活動推進業務

2018年度末でのボランティア登録者数は217名、その内の44名の皆さんが「100平

方メートル運動の森・トラスト」の現場での森づくりや羅臼でのルサフィールハウス裏手に柵を設置する作業などに参加してくださいました。年齢層は10代から70代まで幅広く、道内のみならず遠くは関東や関西からも駆けつけていただきました。今年度、総活動日数は39日間、のべ参加人数は116人日となりました。

## 2. 人材育成・就業体験受入業務

環境教育や調査研究、公園管理の現場で活躍する人材の教育、育成のため、インターンシップ（就業体験）の受け入れを行いました。野生動物や環境保全専攻の学生だけでなく、法学部、経営学部、芸術学部など幅広い分野の全国の学生から応募があり、夏冬合わせて11教育機関よりのべ16名の受け入れを実施しました。

## 公2：施設管理系事業（受託事業）

### I. 知床自然センター等管理運営業務

知床自然センター及び周辺施設の維持管理、映像ホールの運営と料金徴収等の業務を行いました。今年度の知床自然センター入館者数は219,191人で前年度比113%となり、7年ぶりに20万人の水準を超えました。また、映像ホール入館者数は17,673人（前年度比132%）となり、こちらも大きく増加しました。

そのほか、知床自然教育研修所の維持管理を行いました。今年度は、外部研究者やボランティア活動参加者を中心に1,238人泊の利用があり、520,900円を施設利用料金として徴収しました。

### II. 羅臼ビジターセンター管理運営業務

羅臼ビジターセンターの来館者数は45,855名で前年度比は107%となり、過去最大の来館があった昨年度をさらに上回りました。知床国立公園内の羅臼町側の主要な利用拠点（羅臼湖、羅臼岳、熊越えの滝、羅臼温泉園地等）の自然情報、利用状況や野生動物の生息状況等を収集する巡視を積極的に実施し、カウンタースタッフ自らが現地で得た情報を館内での情報提供に活用しました。また、カウンターでの情報提供のほかに自然観察会を4回、特別展示を6回開催し、利用者の方々に普段とは違うビジターセンターを楽しんでいただきました。このほか、ビジターセンターに隣接する間歇泉の噴出時刻を予測し、来館者に提供しました。

羅臼研究支援センターでは、施設の維持管理のほか受付や協力金徴収を行い、外部研究者などのべ35名、180泊の利用がありました。

### III. ルサフィールドハウス管理運営業務

ルサフィールドハウスは今年度も開館期間は4月から10月の7ヶ月間となりました。今年度の来館者数は9,132人で前年度比は115%、開館以来最大の来館があった昨年度よりも、さらに千人以上多い来館者数となりました。今年度は9月の胆振東部地震と全道停電といった災害がありましたが、ルサフィールドハウスはこの直後のルサカフェにも多くの方々にご来館いただき、各種イベントを通して、来館者に楽しんでいただいていた。また、これまでどおり知床半島先端部地区へ立ち入る利用者に対しては、引き続きルールを含めた最新情報や留意点等についてレクチャーし、こちらもこれまでで一番多く63件、103名に実施しました。今年度は、先端部地区で死亡事故もありました。今後もレクチャー内容や装備の貸し出しについて検討を行っていきたいと思います。

## 公3：調査研究系事業（独自事業）

### I. 独自調査研究事業

#### 1. エゾシカ個体群の動態に関する調査業務

知床半島内の重要なエゾシカ越冬地の一つとなっており、林野庁のエゾシカ捕獲事業や一部で一般狩猟が実施されている斜里町真鯉地区において、国道上からのエゾシカ日中カウントを冬期間に計5回実施しました。調査日は原則として可猟期間外（休猟期間内）に設定しました。シカの確認頭数は3月下旬が最多で110頭でした。最大確認頭数は2014年度から2017年度は減少傾向でしたが、狩猟が低調だった今年度は増加に転じました。また、ルシヤ地区において2014年および2016年に生体捕獲してGPS首輪を装着した、計14頭のメスジカについて、環境省事業終了後の追跡調査を実施しました。前年度までに3頭の首輪が脱落しており、今年度は残り11頭のうち1頭が首輪脱落、3頭電池切れ、1頭がヒグマに捕食されました。残り6頭はルシヤ地区での生存が確認されています。

#### 2. ヒグマの生態等に関する調査業務

今年度はドラム缶式ワナにより2頭のヒグマを幌別・岩尾別地区で生体捕獲しました。2頭目に捕獲されたメス成獣には、北大所有のカメラ付きGPS首輪を装着し、サケ捕食の瞬間やヤマブドウ採食時の動画を取得することができました。また、ウトロ市街地柵内に侵入し、国設キャンプ場の樹上に滞留した亜成獣1頭を麻酔銃で緊急捕獲し、幌別地区へ移動放獣しました。また、対策活動時の外見による個体識別精度を向上させるため、ヒグマ5頭について麻酔銃による組織片採取（ダートバイオプシー）を行ない、遺伝子分析による結果を得ました（北大獣医学部との共同）。さらに、有害捕獲等で得られたヒグマの頭骨28個体分（斜里13・羅臼6・標津3・清里3・弟子屈1・小清水1・網走1）の標本作製しました。また斜里町ルシヤ地区を利用するヒグマを、目視と遺伝子分析（分析試料はヘアトラップにより採取した体毛、麻酔銃ダートバイオプシーによる皮膚組織片、回収した新鮮クマ糞など）によって個体識別し、個体間の血縁関係やルシヤ地区の外への移動分散状況などを引き続き調査しました。2018年に斜里町と羅臼町で人為的要因により死亡したヒグマ27頭の中には、明らかにルシヤ地区生まれである個体は含まれていませんでした。

#### 3. 知床の暮らしと生き物を守る電気柵・ゴミステーション等普及業務

知床岬先端部にある斜里側文吉湾の漁業番屋へは、ヒグマが出没してもすぐに駆けつけることができず、対策に苦慮していました。そこでヒグマを近づけないための電気柵を設置しています。今年度の文吉湾では、電気柵を4月下旬に再設置しました。しかし今年度から番屋の利用形態が変わり、日中の作業中しか通電されなくなったた

め、電気柵の効果はわかりにくくなっています。また斜里町ウトロ地区において、ヒグマによる魚干し場被害の拡大防止等を目的として、簡易電気柵の無償貸し出し・設置補助を継続実施しました。

ヒグマが中のゴミを荒らすことのできない堅牢性と仕組みを備えたゴミステーション「とれんべア」を3基ウトロ市街地に設置するため、12月3日よりクラウドファンディングを利用して寄付を募りました。190名の方から目標金額を上回る総額181万円の寄付と暖かいメッセージをいただきました。

羅臼町では、2011年から5年間にわたりダイキン工業株式会社様からの寄付を受けた羅臼町が順次電気柵の設置を進めました。知床財団はこれら電気柵の設置を羅臼町からの業務委託を受け実施してきました。前年度に引き続き、ダイキン工業株式会社様からの当財団への寄付金事業として電気柵の設置、維持管理および撤収を実施しました。また併せてヒグマが民家近くの藪に潜まないように、フキやイタドリの刈り払いも町内各所で行いました。

#### 4. 希少鳥類などの長期モニタリング業務

知床のオジロワシの繁殖状況に関わる調査員によって構成されている「オジロワシ長期モニタリンググループ」の事務局を引き続き担い、情報の集約と会議運営を行いました。会議は12月3日に斜里町内で開催しました。知床財団が調査担当となっている営巣木については、当年の営巣の有無や雛数等について情報収集しました。また、冬期の観光船による餌まき量に関する情報収集ととりまとめを、観光船事業者の協力を得てひきつづき実施しました。

#### 5. 海生哺乳類モニタリング業務

冬期にトドの来遊海域となっている羅臼町から標津町北部の沿岸において、陸上の定点からのドローン（無人航空機）による調査を継続しました。沿岸の遊泳群を上空から撮影し、群れに含まれている標識個体の確認に努めました。今年度の冬期に確認した標識個体は計9頭で、すべて中部千島で出生した個体でした。また上記9頭のうち6頭（66.7%）は、前年度以前にも知床で確認された個体でした。また、北海道区水産研究所や稚内水産試験場が解体・サンプリングを実施した後のトド駆除個体の残滓の運搬・処分をサポートしました。

#### 6. 水域における生物群集モニタリング業務

羅臼町の深層水汲み上げ施設で、前年度に引き続き各種生物を収集しました。また、知床の海域で採集された魚類について種を同定し、生息魚種のリスト作成を進めました。

## 7. 学術的な交流と成果公表に関する業務

### 学会口頭発表

○下鶴倫人 (北大), 白根ゆり (北大), 釣賀一二三 (道総研), 山中正実, 中西将尚, 石名坂豪, 葛西真輔, 能勢峰 (知床財団), 増田泰 (斜里町), 間野勉 (道総研), 坪田敏男 (北大). 知床半島ヒグマ個体群におけるマルチプルパターンニティと近親交配の発生率. 日本哺乳類学会 2018 年度大会 信州大学 (伊那市) 2018 年 9 月

○小川洋平 (知床財団). 知床国立公園におけるヒグマの現状と対策活動. (自由集会「知床国立公園における野生動物観光に対する ICT の影響と課題」) 第 24 回「野生生物と社会」学会大会 (九州大会) 九州大学 (福岡市) 2018 年 11 月

○能勢峰 (知床財団). 知床国立公園のヒグマ観光と SNS による記録・拡散の現状 (自由集会「知床国立公園における野生動物観光に対する ICT の影響と課題」) 第 24 回「野生生物と社会」学会大会 (九州大会) 九州大学 (福岡市) 2018 年 11 月

### 学会ポスター発表

○石名坂豪, 増田泰, 下鶴倫人 (北大), 山中正実 (知床財団). 「知床半島ヒグマ管理計画」運用上の課題. 2014-2018 年の子グマ緊急捕獲 6 例および捕獲未遂 2 例からの考察. 第 24 回日本野生動物医学会大会 大阪府立大学 (泉佐野市) 2018 年 9 月

○山中正実 (知床財団). 知床半島におけるエゾシカに対するヒグマによる捕食の長期的変化. 日本哺乳類学会 2018 年度大会 信州大学 (伊那市) 2018 年 9 月

○山中正実・新藤薫・清成真由 (知床財団). 知床半島における人に対するヒグマの反応の長期的変化. 第 24 回「野生生物と社会」学会大会 (九州大会) 九州大学 (福岡市) 2018 年 11 月

### シンポジウム等口頭発表

○能勢峰 (知床財団). 知床国立公園のヒグマ観光と SNS による記録・拡散の現状 第 12 回北海道の今後のヒグマ研究を考えるワークショップ 新得温泉ホテル (新得町) 2019 年 3 月

○小川洋平 (知床財団). 水産加工場におけるヒグマ対策新手法の検討. 第 12 回北海道の今後のヒグマ研究を考えるワークショップ 新得温泉ホテル (新得町) 2019 年 3 月

○山中正実 (知床財団). 知床国立公園・知床世界自然遺産地域およびその周辺地域におけるヒグマの生態と保護管理について. 第 12 回北海道の今後のヒグマ研究を考えるワークショップ 新得温泉ホテル (新得町) 2019 年 3 月

### 博士学位論文

○山中正実 (2019) 知床国立公園・知床世界自然遺産地域、および、その周辺地域

におけるヒグマの生態と保護管理について. 早稲田大学大学院人間科学研究科博士学位論文, 144pp.

#### 学術誌

○Yuri Shirane, Michito Shimozuru, Masami Yamanaka, Hifumi Tsuruga, Saiko Hirano, Natsuo Nagano, Jun Moriwaki, Masanao Nakanishi, Tsuyoshi Ishinazaka, Takane Nose, Shinsuke Kasai, Masataka Shirayanagi, Yasushi Masuda, Yasushi Fujimoto, Masahiro Osada, Masao Akaiishi, Tsutomu Mano, Ryuichi Masuda, Mariko Sashika, Toshio Tsubota (2018)  
Sex-biased natal dispersal in Hokkaido brown bears revealed through mitochondrial DNA analysis.  
European Journal of Wildlife Research 64:65  
<https://doi.org/10.1007/s10344-018-1222-x>

○Michito Shimozuru, Yuri Shirane, Hifumi Tsuruga, Masami Yamanaka, Masanao Nakanishi, Tsuyoshi Ishinazaka, Shinsuke Kasai, Takane Nose, Yasushi Masuda, Yasushi Fujimoto, Tsutomu Mano, Toshio Tsubota (2019)  
Incidence of multiple paternity and inbreeding in high-density brown bear populations on the Shiretoko Peninsula, Hokkaido, Japan.  
Journal of Heredity esz002 <https://doi.org/10.1093/jhered/esz002>

#### 紀要・報告書・商業誌

○石名坂豪 (2018) 知床半島のヒグマの現状. 国立公園内で進む人なれと分散先で死んでいくクマたち. 北海道ネイチャーマガジン モーリー 50: 14-17..

○能勢峰 (2018) クマと人を守るためのルール. デナリ国立公園に学ぶ. 北海道ネイチャーマガジン モーリー 50: 18-19.

#### 書籍

○石名坂豪 (2019) 知床半島のヒグマの現状. 国立公園内で進む人なれと分散先で死んでいくクマたち. (北海道新聞野生生物基金・北海道新聞社 編: となりの野生ヒグマ. いま何が起きているのか) pp.103-113. 北海道新聞社, 札幌.

#### 知床ゼミ

外部研究者や職員を発表者とした勉強会を計 6 回開催しました。知床財団職員や関係機関等を含め、のべ 86 名の参加がありました。

## 8. 知床半島におけるヒグマ捕獲情報の収集業務

「知床半島ヒグマ管理計画」の対象地域である斜里、羅臼および標津の 3 町において、特に町外在住ハンターによる狩猟期のヒグマ捕獲に関する情報および DNA サンプルの収集を目的として、協力いただいた狩猟者に報奨品（オリジナルバッジ）を配布するキャンペーンを継続しました。また、標津町において捕獲されたヒグマのサン

リング支援など連携体制の強化を図りました。

## Ⅱ. 斜里町及び羅臼町におけるヒグマ・自然環境管理対策事業（受託事業）

### 1. ヒグマ対策業務

#### 斜里町

今年度のヒグマ目撃件数は 1,617 件、対策活動が 1,050 件で前年度を上回り、過去 2 番目に多い年でした。昨年から頻繁に出没していたヒグマが子連れで出没し、宿泊施設の小屋内にあった生ゴミを食べてしまう事例が発生しました。このヒグマは、その後経過観察となりましたが、最終的には有害捕獲されました。知床五湖でのヒグマ目撃件数は、過去最多（216 件）となりました。利用調整地区制度と登録引率者の導入から 8 年が経過し、五湖園地内では人を恐れないヒグマの出没が増えている状況にあります。岩尾別川河口を見下ろす道道の急カーブ連続区間では、河口に現れるヒグマ目当ての観光客やカメラマンなどによる渋滞が頻繁に発生し、対応に苦慮しました。幌別川の河口では、釣り人による自主的な釣り場管理が継続して行われており、知床財団も協力しました。

斜里町内におけるヒグマの人為的要因による死亡数（有害駆除＋狩猟＋事故）は 13 頭でした。そのうち 7 頭の捕獲原因が農作物への加害でした。

#### 羅臼町

今年度のヒグマ目撃件数は 285 件、対策活動は 215 件で、いずれも 7 月に最多となりました。今年度は、5 月に知床横断道路でヒグマの目撃が相次ぎ、5 月の件数としては、目撃件数、対応件数ともに過去最多となりました。羅臼町内における人為的要因による死亡数（有害捕獲＋狩猟＋事故）は 14 頭でした。このうち、有害捕獲された 12 頭の捕獲原因は、番屋施設が壊されたり水産加工場の加工残渣が荒らされる被害や市街地へ侵入したことが原因でした。なお、ヒトとの軋轢を伴わない知床岬先端部における観光船などの船上からのヒグマの目撃は、観光船の便数が増えたこともあり、今年度は 947 件ありました。

### 2. 自然環境管理対策業務

#### 斜里町

ゴミの不法投棄は 51 件あり、多くは食品の包装や容器などでした。サケ・マスの遡上シーズンには、釣り人に対してゴミや魚の管理徹底を呼びかける注意看板を、幌別川河口などに例年どおり設置しました。なお、前年度に引き続き、今年度もフンベ川

河口の駐車帯に幌別川と同様の閉鎖期間が設けられました。

野生鳥獣死体の処理件数は 56 件、傷病鳥獣への対応は 18 件でした。エゾシカのライトカウント調査は、春期と秋期に各 5 回行いました。また、ウトロ市街地柵内におけるエゾシカの捕獲を吹き矢と箱わなによって行いました。吹き矢で 1 頭、箱わなで 12 頭の計 13 頭を捕獲しました。

### 羅臼町

町内各地区で実施した計 43 回のパトロールでは、生ゴミ等の不法投棄への対応が 14 件ありましたが、野生動物への餌やり行為など不適切な利用への指導はありませんでした。

有害鳥獣捕獲の対象であるエゾシカ等を含む傷病野生鳥獣の対応は 35 件ありました。このうち、交通事故や敷地内への侵入防止のために設置された漁網に絡まって負傷、または死亡したシカへの対応は 9 件でした。希少鳥類への対応はオジロワシ 2 件、オオワシ 2 件の計 4 件ありました。また、特定外来生物に関する情報収集や捕獲作業も継続的に行っており、7 月にはセイヨウオオマルハナバチのワーカー14 頭を捕獲しました。その他、9 月にはオオハンゴンソウの駆除作業を行いました。エゾシカのライトカウント調査は、春期と秋期に各 5 回行いました。

## Ⅲ. 野生生物管理事業（受託事業）

### 1. 知床国立公園・国指定知床鳥獣保護区における利用の適正化と野生動物との共生を推進する業務

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内において、ヒグマの出没状況の把握やヒグマ保護管理対策活動等を実施しました。特に知床五湖やフレペの滝などの利用エリアにおいて、ヒグマの出没状況に応じた情報周知等を行いました。2013 年秋にカメラマンと人慣れヒグマの問題が顕在化した岩尾別温泉道路においては、カメラマンや釣り人が守るべきルールやマナーを記した看板を設置し、適宜巡回する等のカメラマン対策を、引き続き実施しました（5 年目）。また公園利用者の不適切な行為（キツネへの餌やりなど）に対する各種指導や、傷病鳥獣の保護収容を行いました。

### 2. エゾシカ生息密度操作関係業務

今年度も冬期間の一大事業として遺産地域内外のエゾシカ捕獲に取り組みました。岩尾別大型仕切柵を含めて囲いわなを 6 基、箱わなを 20 基、くくりわなを約 50 基稼働させ、流し猟式シャープシューティング（道路を閉鎖しての銃捕獲）を 2 ヶ所、誘引狙撃を 3 ヶ所で行ったほか、知床岬ではくくりわなや待ち伏せ狙撃、忍び猟による捕獲も行いました。3 月末までに囲いわなで 63 頭（岩尾別大型仕切柵：15 頭（春 2 頭、

冬 13 頭)、ウトロ東 : 8 頭、弁財崎 : 9 頭、オシンコシン① : 4 頭、オシンコシン② : 10 頭、マコイ沢 : 9 頭、春苺古丹 : 5 頭、相泊 : 3 頭)、箱わなで 55 頭 (幌別-岩尾別 : 33 頭、金山川 : 9 頭、春苺古丹 : 6 頭、ルサ-相泊 : 7 頭)、くくりわなで 100 頭 (幌別-岩尾別 : 36 頭、ルサ-相泊 : 32 頭、ウトロ東 : 13 頭、弁財崎 : 1 頭、オシンコシン② : 9 頭、春苺古丹 : 9 頭)、シャープシューティングで 33 頭 (春 幌別-岩尾別 : 13 頭、冬 ルサ-相泊 : 20 頭)、誘引狙撃で 47 頭(岩尾別 : 41 頭、オベケプ林道 : 6 頭)、さらに知床岬で 11 頭(春 4 頭、冬 7 頭)の、計 309 頭を捕獲しました。

#### IV. 遺産地域調査事業 (受託事業)

##### 1. エゾシカの採食による植生への影響調査業務

エゾシカの捕獲事業を知床岬地区、幌別・岩尾別地区およびルサ・相泊地区で実施中ですが、これら事業の最終的な目的は各地の植生の回復です。その成果を測るため、エゾシカの密度低下後の植生の変化を調べたり、それを長期的に見守るための指標の開発が行われたりしています。今年度知床財団では、知床岬地区の調査をサポートしました。

##### 2. エゾシカ航空カウント調査業務

知床半島の世界遺産地域内限定でエゾシカの航空カウント調査 (ヘリカウント) を実施しました。調査区 10 区画で 138 群 621 頭のエゾシカを発見しました。主要な越冬地 4 地区である知床岬地区、ルシャ地区、幌別-岩尾別地区、ルサ-相泊地区におけるエゾシカのカウント数の増減は、捕獲を行っていないルシャ地区で減少していた一方で、捕獲を行っている地区では増加している結果となりました。

#### V. 科学委員会等運営事業 (受託事業)

知床世界自然遺産地域を適切に管理するために、科学的な見地からの行政への助言が科学委員会会議やその附属会議によって行われています。知床財団は科学委員会本体会議 (8/24 羅臼町、3/6 札幌市) とエゾシカ・ヒグマワーキンググループ会議 (5/24-25、11/19-20 とともに釧路市) の運営事務局として、日程調整、会場準備、資料作成、議事録作成を担いました。また、各会議後には地元向けニュースレターを作成、配布するとともに、前年度 (平成 29 年度) における遺産地域の管理状況や出来事などを取りまとめた「知床白書」を作成しました。

## VI. 自動車規制管理運営事業（受託事業）

カムイワッカ地区で行われているマイカー規制の現地連絡調整業務を自動車利用適正化対策連絡協議会から受託し、知床自然センターを拠点に、運営の円滑化のためにバス会社や各地に配置された警備員や巡視員との連絡調整、利用状況の調査や利用者への情報提供、ヒグマ出没時の連絡整理、負傷者への対応などを行いました。

知床自然センターにおいては、シャトルバスのチケット販売事業をバス事業者から受託し、インフォメーション業務と一体的なチケット販売体制を構築しました。

## VII. 知床エコツーリズム総合推進事業（独自事業）

よりよい公園利用のあり方を目指し様々な協議や試行事業に参加しています。適正利用・エコツーリズム検討会議（世界遺産科学委、利用適正・エコツーリズムWGと地域連絡会議、利用適正・エコツーリズム部会の合同会議）では、地域提案型の利用のあり方やルール作りの仕組みが確立されつつあり、知床財団もこうした取り組みに参画しています。

同会議で提案した「外国人旅行者向け情報発信の強化」について、検討部会を組織し事務局を担いました。また、現地着地後の外国人旅行者を対象に、斜里・羅臼の両町の観光コンテンツをつなぐことをコンセプトとした情報ポータルサイト「知床情報玉手箱」の運用を行いました。

知床五湖では、地域住民に五湖を身近に楽しんでもらうため、「知床五湖ローカル割引キャンペーン」を今年度も継続して実施しました。キャンペーンでは、斜里・羅臼の両町民に対し、通年で地上遊歩道を無料で楽しめるサービスを提供し、今年度は、98組202名の参加がありました。

## VIII. 知床五湖関連業務（受託事業）

2011年より開始した知床五湖の利用調整地区制度は8年目を迎えました。知床財団は制度運営の要となる指定認定機関（環境大臣指定）として制度全体の運用を担っています。本年度は、全期間を通じて68,116名の認定数となりました。

ヒグマ活動期の実績も好調で、特に外国人利用者の増加が目立っています。期間中15,000人を超える利用者がガイドツアーに参加しており、8年連続での増加となりました。

## IX. 住民講座補助業務（受託事業）

2011年より継続的に実施している環境省事業「知床世界自然遺産地域における住民向け普及啓発講座補助業務」を今年度も実施しました。この事業は、地域住民が知床の自然に興味関心を持ち、保全活動に自ら参加する意識を向上するために実施しているものです。今年度はエゾシカ肉をテーマにした料理教室や、羅臼と斜里両町で同時開催したヒグマと人の軋轢を減らすためのゴミ拾い活動のほか、冒険家の関野吉晴氏をお招きした講座を実施しました。

## 公4：森林再生系事業

### I. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務 (受託事業)

2017年度、斜里町主催「しれとこ 100 平方メートル運動」は開始から 40 年、「100 平方メートル運動の森・トラスト」として原生の森の再生に向けた取り組みを始めてから 20 年を迎えました。2018 年度は次の 20 年の最初の年に当たり、新たに定めた目標や計画に基づいた森と生態系の復元、運動の普及に関する取り組みを進めました。この息の長い取り組みの中で、知床財団は、100 平方メートル運動に関わる現地業務を担っています。

#### 1. 森林再生推進業務

##### 森林再生作業

春から秋にかけて、苗畑での除草や苗木の根づくり、樹高 6 メートル以上の大型苗の移植、老朽化した防鹿柵の補修などの作業を行いました。それらの作業は全て多くのボランティアの皆様にお手伝いをいただきながら進めました。

また、新たな 20 年間の試みとして、重機を用いたササ地の書き起こし作業を行いました。これは、掻き起こすことでササの勢力を弱め、これまでササ地だった場所に新たな木々の更新を促すことを目的とした作業です。

近年、運動地の一部では、エゾシカ捕獲の効果によるシカの生息密度の低下が見受けられ始めています。これまで防鹿柵の設置や樹皮保護ネット巻きなどシカ対策に多くの労力を費やしていましたが、これからはこれまでできなかったササ地や造林地での森づくりを進めていく計画です。

##### 生物相復元

運動地内を流れる岩尾別川では、かつて生息していたサクラマスを復元する取り組みを進めています。これまでの 20 年間（一時中断期間あり）、地元漁業関係者の協力を得て卵の放流を継続し、毎年海から戻ってくるサクラマスを確認する調査を行ってきましたが、その結果は、数尾程度という状況が長く続いていました。しかし、昨年度、初めて二桁となる 15 尾のサクラマスを確認し、この夏はさらに多い 22 尾の魚の姿を確認しています。今後も経過を観察する必要がありますが、開始から 20 年を経て、岩尾別川でも復元への兆しが現れ始めています。今後も岩尾別川の環境改善を進めていくため、これらの結果や現在も残存している岩尾別川のダム状況などについて、世界自然遺産地域内の河川の管理検討する河川工作物アドバイザー会議にて報告を行いました。

### しれとこの森交流事業

森づくりの現場と運動参加者をつなぐ交流事業では、「第 39 回知床自然教室」（7 月 30 日～8 月 5 日、参加者 47 名）、「第 22 回しれとこ森の集い（植樹祭）」（10 月 21 日、参加者 92 名）、「第 22 回及び 23 回森づくりワークキャンプ」（5 月 15 日～19 日、参加者 6 名／10 月 30 日～11 月 3 日、参加者 11 名）の企画・運営を行いました。

過去 39 年間続く知床自然教室は、知床の自然や 100 平方メートル運動を次世代に引き継いでいくために始まりました。これまでのべ 1800 名以上の子どもたちが参加し、現在では親の世代となった元参加者の子息も多く参加しています。40 年目の節目を迎える 2019 年度には、自然教室 OB、OG や運動を支える多くの方々に向けてのイベントを開催する計画です。

### 森林再生専門委員会議運営

森づくり作業の方針や計画は、動植物の専門家と地元の有識者で構成される森林再生専門委員会議の場で議論が行われその方向性などが定められています。

前年度は森づくり開始から 20 年目の節目であったことから、次期 20 年間の目標と計画について議論を重ね、「森・川・人」をテーマに森づくりや生物相復元、そして運動地公開を進めていく「第 2 次中期方針（2018～2037 年度）」を策定しました。

今年度の会議では、新たな試みとして進めているササ地の掻き起こし作業の現場などを視察したほか、新たな 20 年間の 1 年目となる取り組みの結果報告を行いました。

### 運動地広報企画

100 平方メートル運動の広報誌『しれとこの森通信 No.21』（A4 判カラー 28 ページ）の企画・編集作業を行いました。今号は、過去 20 年の総括と新たな 20 年間の方針を報告するため、ページ数を増やした増補版として発行しました。また、斜里町民向けに運動の状況を伝えるチラシ『しれとこの森通信ミニ』（季刊）を作成し、町広報誌に折り込み配布も行っています。

その他、運動ホームページでは、日々の作業状況を発信するとともにイベントやボランティア募集の媒体としても活用しています。

## Ⅱ. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業（独自事業）

本業務は、斜里町主催「100 平方メートル運動の森・トラスト」の安定的な継続と発展を図るため、運動地を含めた運動の普及と推進に、運動の現地業務を担う知床財団が斜里町と連携を図りながら独自事業として取り組んでいるものです。

### 1. 普及推進業務

「しれとこ森づくりの道」の開設運営を行いました。知床自然センターを起点に旧開拓家屋や開拓小屋を巡る「開拓小屋コース」は、初めて春からの運用を行い、ヒグマが活発に活動する 6 月前後の約 1 か月の閉鎖期間を含め、12 月上旬までの約 7 か月間で 1,153 名の方に利用していただきました。

その他、2014 年に開設した「シカ柵コース」や冬期のスノーシューコースの開設と運営も引き続き行いました。

知床自然センターでの運動普及に向けた取り組みとして、斜里小学校や斜里高校などの教育機関の受け入れを行い、教室での授業だけではなく、実際に運動地を歩き 100 平方メートル運動の取り組みや開拓の歴史について紹介しました。

合宿形式の森づくりイベントでは、ダイキン工業株式会社様の社員ボランティア（9 月・2 月）を開催し、それぞれ 10 名前後の皆様が、知床の森を訪れ、実際の森づくりに関わっていただきました。その中で、初めての冬期での開催となった 2 月のボランティアでは、厳冬期の知床の自然体験も含めて好評をいただき、今後も冬の開催を続けていくことになりました。

収	益	事	業
---	---	---	---

収 1 : 収益事業
------------

## I. 販売・有償貸出業務

知床財団の活動を広く知ってもらうことを目的に、オリジナル商品の開発を行いました。株式会社フェニックスとのコラボレーション商品、オリジナル T シャツは今年度で 8 年目を迎え、デザインも新たに計 850 枚販売しました。今回は全国各地のフェニックス直営店などでも販売し、大変好評で年度内に完売しました。そのほか、株式会社モンベルのサーモボトルとのコラボレーション商品や知床財団名前入りのカラビナも作成しました。

オンラインショップ「コムヌプリ」の売り上げは今年度大変好調で、開店から初めて 100 万円を超えました。卸販売は昨年度から取り扱いを開始した「北こぶし知床 ホテル&リゾート」の売店に加えて、今年度は「KIKI 知床 ナチュラルリゾート」でも商品の取り扱いを始めていただきました。

知床自然センター、羅臼ビジターセンターおよびルサフィールドハウスで、ヒグマ撃退スプレーとフードコンテナの有料貸出を行いました。今年度は、ヒグマ撃退スプレー473 件（前年度 560 件）、フードコンテナ 36 件（前年度 39 件）を貸出しました。貸出の際には、契約内容や使用方法、ヒグマとの危険な遭遇を回避する方法について写真を用いて理解しやすいよう配慮した資料などを作成、利用し、10 分程度のレクチャーを行いました。

知床自然センターで長靴・双眼鏡の有料貸出を実施し、長靴 3,376 件（前年度 2,608 件）、双眼鏡 251 件（前年度 283 件）の利用がありました。また冬季におけるスノーシューの貸し出し実績は 1,163 件（前年度 1,006 件）となりました。昨年度より追加したポールの貸出は 163 件（前年度 112 件）の貸出がありました。羅臼ビジターセンターにおける長靴のレンタル業務では、79 件（前年度 57 件）の利用がありました。

2018 年度の販売売り上げは 24,535,680 円（前年度 22,983,198 円）、レンタルによる売り上げは 3,025,000 円（前年度 2,706,200 円）となりました。

昨年度導入したクレジット対応機器も稼働率が伸びており、年間の店舗売上金額の 23.35%がクレジット利用によるものでした。

## II. 研修実習受入業務

道内外の各種団体から依頼された講演、レクチャー、行政視察、執筆等に対応することにより、知床の価値を紹介、または、知床財団の持つ野生動物保護管理や調査研究、公園管理、環境教育のノウハウを広く提供・共有する活動を行いました。2018 年度は 53 件実施し、3,316,891 円の収入がありました。

## 他 1 : その他の事業

### I. JBN業務（受託事業）

日本クマネットワーク（JBN）からの受託業務として、JBN 会員向けニュースレター「Bears Japan」の発送、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」の発行・販売、JBN ホームページの運営管理を行いました。年 3 回発行の JBN 会員向けニュースレター「Bears Japan」は会員や関係機関に、のべ 1,001 件発送しました。また、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」については、店頭および通信販売を通じて計 49 部を販売しました。ホームページについては、日常的な掲載内容の更新を JBN 事務局と連携して実施しました。

日本クマネットワークは、個人や地域ごとの単独の活動だけでは難しい全国レベルの諸問題や国際問題に関し、必要に応じて社会に対して働きかけを行い、人とクマのより良い関係を構築する活動を行っている NGO 組織です。近年は、クマによる人身事故対策や絶滅の恐れのある四国のツキノワグマ個体群の保全活動に精力的に取り組んでいます。会員は専門家やクマに関心を持つ一般市民、およそ 360 名で構成されています。

法	人	会	計
---	---	---	---

## 法 1 : 財団法人管理運営事業

### I. 財団法人管理運営業務

理事会は、第 1 回理事会（5 月）は、「平成 29 年度事業報告及び決算報告、監査報告、定時評議員会の招集、役員改選に伴う名簿の提出、賛助会員入会承認」について審議しました。第 2 回理事会（6 月）は、「代表理事の選定」について審議しました。第 3 回理事会（10 月）は、「賛助会員入会承認」について審議しました。第 4 回理事会（12 月）は、「賛助会員入会承認」について審議しました。第 5 回理事会（3 月）は、「平成 30 年度事業計画（案）、収支予算（案）、資金調達（短期借入金）の限度額の設定、就業規則の一部改正、給与規程の一部改正、賛助会員入会承認」について審議しました。

定時評議員会（6 月）は、「平成 29 年度事業報告及び決算報告、監査報告、任期満了に伴う役員選任、定款の一部改正」について審議しました。

今年度、知床財団は設立 30 周年、知床自然センターは開館 30 周年を迎えたため、1 年を通して各種周年事業を実施しました（表 1）。

表 1. 知床財団設立 30 周年、知床自然センター開館 30 周年記念事業一覧

1.	「知床財団 10 年プロジェクト～これからの私たちの羅針盤～」作成
2.	「知床財団 30th Anniversary book あなたと次の知床へ」作成
3.	知床財団 30th ロゴマーク作成
4.	知床財団 30th ロゴマーク付きオリジナルグッズの開発・販売およびノベルティグッズの開発・広報活動
5.	知床財団設立 30th、知床自然センター開館 30th 記念祝賀会開催
6.	知床財団設立 30th 記念懇話会開催
7.	<p>知床アウトドアフィルムフェス開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● バンフ・マウンテン・フィルム・フェスティバル・イン・ジャパン</li> <li>● モニター上映会 今津秀邦 知床を撮る！</li> <li>● Artist in SHIRETOKO</li> <li>● アウトドア体験プログラム <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ツリーイング</li> <li>✓ 森づくりの道トレッキングツアー</li> <li>✓ 知床峠ダウンヒルツアー</li> <li>✓ 知床ナイト</li> </ul> </li> <li>● Shiretoko Outdoor Market</li> <li>● Shiretoko Sustainable Cafe</li> </ul>